

目次

横浜ゴムグループの概要	3
社長メッセージ	4
企業理念 沿革 新中期経営計画	6
コーポレートガバナンス	8
環境への取り組み	11
地球温暖化防止に向けて	12
環境経営	14
環境貢献商品の開発	22
環境対応生産	30
グリーン調達・購買	36
化学物質の管理	37
廃タイヤ3R	38
環境会計	40
社会との共生	41
お客さまと共に	42
株主・投資家と共に	44
従業員と共に	45
地域社会と共に	49
グローバル環境経営責任者	53
「環境・社会報告書2006」アンケート結果	54
第三者による保証	55

表紙のことは

“社を育てる”。地球環境保全の取り組みのひとつとして、横浜ゴムグループは、今後3年間で、国内全工場敷地内に、タブノキやシイノキなど約22万本を植樹する計画です。社内で募ったボランティアが、地域の皆さまや社外ボランティアの皆さまの協力を得ながら、どんぐり拾いから始め、約10年かけて社を育成します（詳細はP52参照）。

見通しに関する注意事項

本報告書の記載内容には、現在の事実だけでなく、将来の予測、計画、目標などが含まれています。これらは現時点（2007年7月）で入手できた情報に基づく仮定ないし判断であり、不確実性が含まれています。実際の業績は、横浜ゴムグループの事業活動だけでなく、世界経済の動向、地球環境の変化などに影響を受けるため、本報告書に記載した予測、計画、目標が、実際とは異なる可能性があります。読者の皆さまには、このことをご承知おさ下さいませようお願い申し上げます。

編集に当たって

この報告書は、横浜ゴムグループに関係するステークホルダーの皆さま（お客さま、株主・投資家の皆さま、取引先さま、従業員、地域社会の皆さま）に、横浜ゴムグループの活動をご理解頂くために発行するものです。冒頭で経営者の考え方、企業理念、コーポレートガバナンスなどについてご紹介します。続いて「環境への取り組み」の章で、横浜ゴムグループが掲げる「トップレベルの環境貢献企業」に向けた活動を記載しました。特に本年は、地球温暖化防止活動報告に重点を置きました。「社会との共生」の章では、お客さま、株主・投資家、従業員、地域社会の皆さまとの係わりをご紹介します。なお、本年から紙資源保護のため、サイト情報（横浜ゴムの生産事業所や国内外の子会社・関連会社の情報）をホームページ（<http://www.yrc-pressroom.jp/env>）に掲載することとし、ページ数の削減を図りました。

対象期間

2006年度（2006年4月～2007年3月）。大きな進捗があったものは2007年7月まで記載。

報告範囲

横浜ゴム及び国内外の子会社・関連会社の環境的、社会的、経済的側面。

対象組織

横浜ゴム及び国内外の子会社・関連会社。ただし環境パフォーマンスの集計範囲は、横浜ゴムの8生産事業所。なお、ホームページ掲載した「サイト情報」に横浜ゴムの生産事業所及び子会社・関連会社の生産事業所及び非生産事業所の環境パフォーマンスについて、その一部を掲載しています。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2007」

GRI「サステナビリティレポートガイドライン2002」

* GRI=Global Reporting Initiative

次回発行予定

2008年9月